

重点プロジェクト中間報告（まとめ）

11 エコ生活プロジェクト

<発表> 中西和さん

- ・ やっとはじまったという感じ。
- ・ 自分の生活の中から体験して、提案し、体験の場所を作っていこうとしている。
- ・ 取り組む主体は、自分たちと同じ目的をもった環境団体とやってきたい。
- ・ 本当にやってみようと思う方から一般の人に広げていきたい。
- ・ 具体的な内容としては、「地球温暖化対策モニター」「エコライフ虎の巻」。
- ・ 「地球温暖化対策モニター」を広げている。市長さんや議員さんにもアピールした。
- ・ 明日が×切なので、関心のある方は申し込んで欲しい。
- ・ 省エネの数値目標をたて、モデル家庭で実践していきたい。
- ・ 「エコライフ虎の巻」は現在検討中。来年度は講座も開いていこうと考えている。

8 細街路のまちなみプロジェクト

<発表> 三角さん

- ・ 古い街並みを保全し、市民の手によるまちづくりを進めようとしている。
- ・ 住宅街では……。
- ・ 漠然としたねらい
- ・ 都市計画基礎調査で建物老朽度をみると、赤池、岩崎では昭和45年以前の木造家屋が多い。
- ・ 地元の方に取材しようとしたが台風と対象の方の入院でできず。
- ・ 岩崎でヒアリングしようとしたら、紹介された方が亡くなっていた。
- ・ 昨日の環境寄合では、西組、村東の方から話を聞いた。
- ・ 西組には蔵のある家が4軒あると聞いた。
- ・ まちなみを保存する方法については、方向性が定まらない。
- ・ 赤池探訪、岩崎探訪を制作した市の職員に話を聞いた。
- ・ 瀬戸市の古いまちなみのフィールドワークをした。
- ・ これからどんな方向に向かっていけばよいかわからないプロジェクトなので、ご意見ください。

2 親水基準づくりプロジェクト

<発表> 伊藤肇さん

- ・ 出席率100%のプロジェクト！3人しかいないけど。
- ・ 水がきれいとか気持ちいいとかということで以前ワークシートを作ったが、現在のものは違う。
- ・ よく考えると、親水基準なので、親しむことが基準であると考え、情感、情景などで5つ星を作ろうと考えた。
- ・ 5つ星で1つ星は逆にきたない所ということだったが、きれいな所を評価していこうということになった。

- ・水辺がいのちにとって大切であること、水辺が人の暮らしにとって気持ちよい、水辺がふるさとの財産だよということを評価基準として考えていきたい。というように気持ちの基準とした。
- ・評価する基準としては、目の前の水辺だけでなく借景も含めて、近づきやすい、生き物が多様である、遊び場としてどうかなどを考えている。
- ・先日フィールドワークもした。
- ・どうやって市民の人に伝えていくかを今後考える必要がある。

14 にっしんのんびり村プロジェクト

<発表> 村田尚さん

- ・「にっしん ら～ぶっ」No.3に詳しく書いていただいた。
- ・昔ながらの暮らし（古民家、農業、エネルギーの自給などスローライフ）が体験できるのんびり村をつくらうとしている。
- ・お年寄りが福祉を名目に役立たずにされているが、のんびり村では大活躍できる場所になる。
- ・子どもたちは何もできない。生きる力が育まれていない。のんびり村ではできるかも。
- ・実際には、活動拠点を1カ所借りている。昔畑だったところを再生しようとしている。
- ・竹藪を刈って日を入れたり、畑を耕したり。森口さんが竹を使って笛を作ったり…。一人一芸が出来る場。
- ・8 / 27 に、京都の綾部から塩見さんをよんで、「半農半X」というテーマを一緒に考えた。
- ・のんびりフード（風土、食べ物）をテーマにイベントをしたい。井戸を掘ったり、小屋を作ったりして、夢を広げている。

3 東部丘陵自然公園プロジェクト

<発表> 杉澤さん

- ・ねらいは、東部丘陵のまとまりある緑地の...（録音）
- ・こんなに身近な所に...（ワークシート ー2）
- ・現状は大畑開発が半分以上買い占めて、陶土を掘ろうとしている。
- ・水と緑の課の環境保全型公園の基本計画では、狭い範囲の計画だが、岩藤、米野木、三本木など広い範囲の緑地を保全したいと考えている。
- ・民地なので、どうしたら保全できるか考えあぐねている。
- ・レッドデータブックの作成、ハイキング、自然観察会、研究会を催しながら、緑地の保全方法の探求や市民への周知を行っていきたいと考えている。
- ・環境保全監視隊というのを組織したい。日進市の自然環境がどうなっていくのか見回るおまわりさんである。
- ・このままでは宅地化が進み、緑地が減る。緑地所有者の協力を得る方法を探っていきたい。
- ・環境保全に取り組んでいる籠橋弁護士（名古屋市在住）を招き勉強会も開催する予定である。

4 農業公園プロジェクト

<発表> 山田幹雄さん

- ・農業公園をつくりましょとと考えてきたが日進全体のことを考えようと、農地の保全について考えるようになってきている。
- ・食の安全、地産地消、交流などを考えている。
- ・ねらい.....
- ・消費者と生産者は、農か非農かという括りではなく、市民菜園でも農であり、市民全体に農地保全について考えてもらう。
- ・環境保全型農業を進めることも考えているが、農家に余計なお節介と言われそうだが、農地保全という目標でわかってもらうようにしたい。安全な農作物・地産地消、学校給食への提供などを通じて、みんなに誇れる農産物を増やしていきたい。
- ・土地を借りて、体験農園をやろうという話も出てきている。

<質問>

- ・農業を守ることと農地を守るとは少し意味が違う。農業を守れば農地は守れる。農地を守るための方策はまた別途ある。その辺りを整理して考えた方がよい。農業は経済システムを含むものである。
農業をサポートする方向で考えている。農家サポートのシステムを考えている。農産物だけでなく、農業体験でお金を得ることもある。

5 みどりいっぱいプロジェクト

<発表> 丸山さん

- ・ねらいには地球温暖化を防止するために...とあるが、大きなことはできないが、世界のみ
んな
と手をつないで、究極には地球を守ることまで効果がある。
- ・車1台で二酸化炭素を600kg排出するが、それを吸収するには600本の木が必要。
- ・日進の緑があるから来たという新住民がたくさんいる。
- ・今ある緑は保全し、さらに緑を増やしていきたい。
- ・名古屋から豊田の方まで広がってきているヒートアイランド防止もめざしている。
- ・みどりのコンテスト、みんなの憩える緑道づくり、緑のネットワークづくりの3つに絞って、具体的方法を検討していきたい。
- ・みどりいっぱいP」は他のプロジェクトとも関連しているので一緒になってやっていきたい。

<質問>

- ・「にっしん ら～ぶっ」No.3に「生活居住型複合公園」とあるが何か？
現在している議論をまとめると、日進全体がこうなるとよいという発想である。公園、水、自宅、塀など、どこでも緑化はできる。「にっしん ら～ぶっ」の原稿を書くのに発想した個人的な造語である。

12 小学校区コミュニティづくりプロジェクト

<発表> 丹羽さん

- ・暗中模索しているが、7つのPJの発表を聞いて安心した。
- ・環境まちづくりのためにはコミュニティが必要ということから、小学校区ごとの特徴を生かしたコミュニティをつくっていききたい。
- ・既存のコミュニティで家庭教育推進協議会を調査することにより、小学校区の特色が見えてくるのではないかと考えている。
- ・9月半ばから調査を始める。調査項目と趣旨を打合せしている。
- ・どんな団体、個人が所属しているか？行政区、自治会、PTA、子供会、民生児童委員、老人会、女性クラブ、ボーイスカウトなど。実践活動報告書が出来ている。
- ・どのように団体が選ばれているか？組織構成は？
- ・活動部が4つある。ふれあい、学習、広報、調査。人員構成、内容は？
- ・活動方針をどのように決めているか？
- ・委員長さんに聞くと言いたくないことは言わない恐れがあるのでそのあたりを戦略的にしたい。
- ・環境寄合に全部参加しているのも、コミュニケーションが大切だと思うから。
- ・活動実態を把握したうえで、どこかのモデル地区を設定して、新しいコミュニティが作れたらなぁと思っている。

7 セントラルパークプロジェクト

<発表> 萩野一さん

- ・昨年、10年後、20年後、にっしんがどうあったらよいかをみんなで考えた時に、文化、学習ができる空間、まちの核にできるといいなぁという意見があって、それを実現することを目的としたプロジェクトである。
- ・現時点で、場所を考えると、市役所、スポーツセンター、市民会館などがあり、みんなが集まるところ。これらを公園などを設けて、有機的につないでいくということで、蟹甲あたりとし、構想を練っていかうとしている。
- ・緑を感じられる公園をつくる。旧瀬戸大府線を人が歩きやすい道にしようとする。人が歩いたり、電気自動車など環境にやさしい移動手段の整備。
- ・人が集える店舗など。
- ・実際に歩いて、勝手にまちのイメージを立てている。
- ・南地区での環境寄合で、地元の方の意見を入れながら、より現実性のある構想にし、具体的な絵を書いて、スケジュールを立てていきたい。

1 源流域元気プロジェクト

<発表> 須藤さん

- ・源流域というと東部丘陵あたりと想像するが、天白川全流域からすれば日進市全域が源流域という考えで取り組んでいる。
- ・きれいな川にするためには何をすべきか、取り組みたいことはたくさんがあるが、とっかかりやすいところから始める。
- ・川幅の狭い地域からはじめて、三本木川で活動する中でまず現状を知る。
- ・三本木川を元気にする会、天白川で楽しみ隊以外にも取り組んでいる人たちがいないか環

境寄合で聞こうとしている。

- ・ゴミを捨てないようにするには？子どもたちを巻き込んでとか、こどもの頃にあそんだきれいな川を取り戻すにはということを知っている。
- ・西部地区の人が危機感を持っていたのは、集中豪雨の時にいのちの恐怖を感じたから。
- ・川は一般に上流がきれいで下流がきたないが、天白川は上流が汚く、下流がきれいという特徴がある。

< 質問 >

- ・親水基準PJと源流域元気PJの両方のPJに関わっていると、一緒にした方がよいのではと思った。どちらも水について調査している。源流域元気PJにはサポートとして入っているつもりだったが、重要な仕事もするようになった。親水基準PJと一緒にやりたくないというなら別だが... (笑)

その件に関しては本日欠席の代表の岡田さんに一任しているのでよろしく。

15 おまかせ！エコ共育プロジェクト

< 発表 > 島村さん

- ・共育は、上から教えるのではなく、共に学ぶことを大切にしたいという思いが込められている。
- ・環境共育に関しては中部リサイクル運動市民の会など多くの市民団体で取り組まれている。
- ・その中で日進では何をやるかだが、感性をみがく、五感で体感できるプログラムをつくる。
- ・1 環境プログラムの提案（対学校、対地域、対企業など）...一つのツールとしてグリーンマップづくりに取り組みは始めている。
- ・グリーンマップとは、世界的な活動で、共通アイコンで表して、環境というめがねでまちを見つめるもの。
- ・先日も説明会を開いたところである。長久手、一宮などでも取り組まれている。
- ・2 環境関係のネットワークのコーディネート。
- ・3 環境に詳しい人材の発掘。
- ・4 環境ベースキャンプ（のんびり村とも関係する）
- ・これからプログラムを作っていきたい。

< 質問 >

- ・広がりと言われた時に、小学校区コミュニティとのつながりを考えて欲しいが、それは視野に入っているか？

校区ごとにグリーンマップを作れば一番よいと考えている。

9 みんなに優しい交通プロジェクト

< 発表 > 萩野光さん

- ・サブリーダーとして引き受けたが、リーダーが交通事故で1～2カ月休みなので、現在進めている。
- ・車だけに頼った日常生活を見直し、地球環境保全に寄与したい。
- ・愛知署で平成14年7月1日から10月31日に起きた交通事故の地図がある。250件の交通

事故。

- ・環境寄合で何を望んでいるか聞いたら、世界規模の異常気象は大問題だから車を見直す時期だという意見があった。
- ・日進市は自家用車に頼らないとできないまちづくりをしている。公共交通機関を具体的に検討する必要がある。
- ・生活道路、県道に歩道がない。細い道路に通り抜けの車が多いという意見も聞いた。
- ・具体的に実地調査をするのに人手が必要なので、プロジェクトを合体できるといいなあと個人的には思っている。

5 エコカープロジェクト

<発表> 武田課長補佐

- ・3人で構成されているが全員欠席なので、事務局担当者として説明する。
- ・超低排出ガス車、ハイブリットカーなどを増やしていくことが目的。
- ・具体的に環境課の職員が担当しているので、エコカー助成を実施計画に取り上げている。
- ・割高感があるが、燃費を考えると長い目で見ると変わりはないという啓蒙も必要。
- ・市ではグリーン調達を取引している事業所に要請することもある。
- ・公用車をエコカー化する。
- ・天然ガスステーションもできたので、それを活用していく。

10 エコライフ情報プロジェクト

<発表> 島田さん

- ・ねらいは3つ。環境問題に関する事実を伝える、いいことも悪いことも。共に考える機会をつくる。日常生活の中で実践に結びつける。
- ・住民票がなくても滞在している人も対象。
- ・ミニコミ、市の広報、回覧板、看板、集会、ホームページ、ポスター、公用車、にっしんTVなどを活用したい。
- ・情報収集して、整理、管理、発信する。
- ・とりかかりやすいところから長く続けていく。
- ・情報受発信のネットワークづくり。
- ・環境カウンセラー、環境情報センターの調査をしたい。
- ・日進市でどのように発信ができるか。資金調達方法。
- ・情報発信に関するボランティアグループとして、ハートステーションにヒアリングした。
- ・ブツというマニュアル作成を目指している。
- ・「にっしん ら～ぶっ」との関係は今後考えていきたい。

<質問>

- ・環境カウンセラーって何ですか？

国が認定して、山のこと緑のこと生活に詳しいなど人を登録している。どこかで講演してほしいということがあった時に登録リストから選ぶことができる。そういう人達に知恵を借りることも考える。愛知県で環境指導者を募集していた。そういう制度も調べていきたい。

13 市民ネットNPO法人化プロジェクト

<発表> 大江さん

- ・今年度で市民ネットの契約は終わりだが、これで終わりでは寂しい。
- ・こんなに熱い想いをもっているのなら、続けるべきだと考え、その手段としてNPO法人化を考えている。
- ・計画づくりの中での共働（市の枠組みの中）から、自立した共働へ（市の枠組みから少しずつ離れる）。
- ・原則として、対等、自主性尊重、自立化、相互理解、目的共有、公開がある（横浜市と市民活動の協働の原則としてあげられたもの）。

- ・資料の確認 C . 市民ネットNPO法人の性格と市との共働関係について説明
- ・確認 B . 重点プロジェクトの事業実施と理事就任について説明
- ・確認 A . 法人設立までの流れについて

<質問>

- ・4月以降ある団体は必要だと思うが、NPO法人化するのと、NPOで留まることの違いは？市から委託を受けたりするため。
- ・里山リーダー会を発足したが、法人化していない。手作りの組織で歩き出した。なぜ法人化なのか？

契約は法人でなければならないということはない。金額は少ないが。問題は、環境基本計画を推進するという目的をもって進めて行くには、金銭的に行政がすべて出すには限界はある。民間企業や国の機関から助成金を受けることも考えなければならない。資格要件として法人であることが多い。

- ・話はよく分かった。里山の方も発展的には法人化も考えると思う。法人化をめざして研究するというので、しばらくはNPOで、のってきたらNPO法人化をめざすべき。急ぎすぎでは。NPOであっても体制づくりは必要。プロジェクトとして立ち上がってきたことを尊重したい。一般的なNPO法人は市民が強いミッションを持って生まれるが、市民ネットは生い立ちが違うので、一般的なものとは違う。多少べったりの部分があってもよいと考えている。
- ・環境基本計画を実行に移すには、法人化だけが手段ではない。地域での環境行動計画（ローカルアジェンダ21）まで含んだ計画づくりで動いてきている。
- ・法人化することはいいことだが、市の委託を受けることに力点があるので、市を監視するという視点が抜け落ちる恐れがある。
- ・計画を実施する段階ではいろんなお金がかかってくる。計画づくりにも実際はお金がかかっている。事務局も担わなければならないし、結構お金がかかっているので、法人化しておいた方がお金が集めやすいと考える。
- ・これからの世の中は、行政が手一杯でできないことを、想いをもった人が実現するためには、事務局、拠点が必要で、そのためには法人化することが必要だと思う。
- ・法人化かしないか決める必要があるのでは？
法人化することはプロジェクトを立ち上げた時点で決まったことだと考えている。今回はその取り組み状況の報告という位置づけである。